



昭和二年（一九四六）の南海地震の時に、河川に浸入した津波の速さを徳島の津田で体験した人の話です。私は、当時徳島の津田で製材所を営んでいました。明け方、大きな地震がありました。とつさに「津波が来る」と思った私は、両親と妹たちをいそいで裏山へ避難させました。しかし、私はどうしても川につないである材木が心配でなりませんでした。材木の様子を確かめるために川へ出かけました。その時私は津波のすさまじさを目の当たりにすることになりました。

川の水はザーツとものすごい勢いで海側の津田の防波堤の方まで引きました。普段なら五〇メートル以上もある川幅が、水が引いたせいで帯のようにわずか一間（約一・八メートル）に満たない川幅になりました。その後、引いた波はものすごい速さと勢いで川を逆流し始めました。その水の速さといったら、その頃の私が全力で走っても到底及ばない速さでした。

川につないであつた材木は波にのまれてしまいました。とうとう津田橋の橋桁に材木が轟音とともに勢いよくぶつかり、その凄さに思わずウオツと唸ってしまいました。その後、津田に押し波、引き波が一〇回程度押し寄せているうちに、ついにつないであつた綱は切れてしまい、その材木はバラバラになって点々と散らばってしまいました。

私は、材木を見届けると、家族を避難させた裏山に戻りました。そこには心配して私の帰りを待っていた家族がいました。私は、恐怖のあまり震えが止まりませんでした。

背景

津田は園瀬川と勝浦川に挟まれた中州にあたります。埋め立てが進んでいますが、いまでも木材工業団地になっており、前面の海域は貯木場になっています。津田山（標高78m）の津田八幡神社からは貯木場を一望することができます。

アクセス 大野大橋（園瀬川河口）

- ・JR徳島駅より南へ直線距離約3km
- ・徳島市西新浜町
- ・緯度経度 北緯34度02分42秒，東経134度33分19秒

